

山本起也監督作品

でも、ほんとうに自分の居場所が

ここなのかは分からない。

そんな時間が、流れている場所。



この映画には、将来のチャンピオン候補と呼べるような、
飛び抜けた素質を持った選手は登場しません。
しかし、自分がまだ何者かわからない者だけが
持つことのできる時間が、そこにはありました。
そして、そんな彼らの時間もいつかは終わる
というはかなさを予感しながら、カメラは回り続けました。
けれども、
彼らの時間は簡単には終わりませんでした。

でも、ほんとうに自分の居場所がここなのかは分からない。
不安と希望が、いっぱいあった場所。ジム。

多摩川の丸子橋を渡ってすぐのところに、北澤ボクシングジムはあります。元日本ジュニアバンタム級チャンピオン北澤鈴春が、22才でこの場所にジムを開いて10年。このジムにのべ1000人以上もの練習生が、それぞれの思いをボクシングに注いできました。壁にぶらさがったグローブ。汗まみれのシューズ。サンドバッグ…。

しかし、誰もがチャンピオンになれるわけではありません。おそらく、多くの若者は、自分がまだ何者か分からないまま、汗を流しているのです。強烈なKO負け。引き分け。ある若者は、その後ジムを去り、あるのは「もう人を殴りたくない」とつぶやく…。

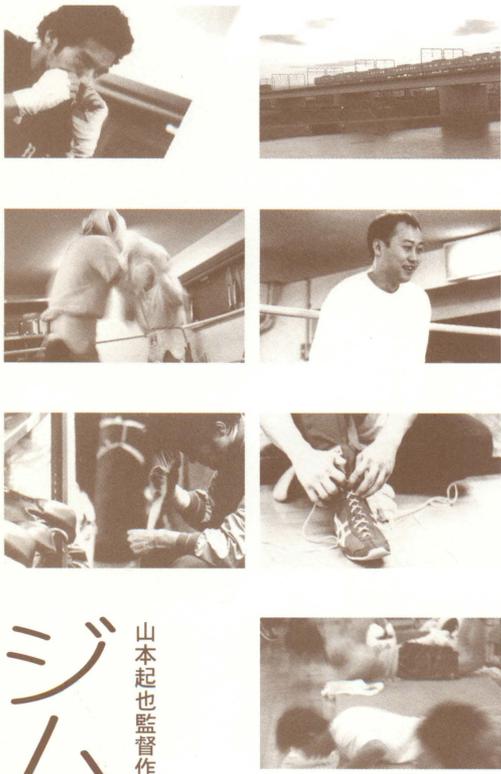
『ジム』は、北澤鈴春とジムの若者達を追ったフィルムです。ジム。それは、誰もが抱く不安と希望が、いっぱいあった場所なのでしょう。

北澤鈴春とジムの若者たち。

彼らを優しく包むような寺島進のナレーションと谷川賢作の音楽。

監督は、今回が初劇場公開作品となる山本起也。沢木耕太郎のノンフィクション『一瞬の夏』、そしてなによりボクサー北澤鈴春と出会うことで、自らも練習生となり6年にわたって北澤ジムを撮影。更に幾度となく編集を繰り返し、慈しむように『ジム』を完成させた。

そんな山本監督の思いを代弁するかのようなナレーションを、北野武監督作品の常連でもある寺島進が担当。寺島自身も、ボクシングファンであり、ジムに通った経験を持っている。音楽は、ジャズピアニストでもあり市川崑監督『四十七人の刺客』、市川準監督『竜馬の妻とその夫と愛人』のサウンドトラックも手掛けた谷川賢作。ジムを去るもの、そして、別の職業に新たな道を模索するもの、まだジムにいて汗を流すもの、そして、そこで迷い悩むものの姿。寺島進のナレーションと谷川賢作の音楽が、ジムの若者達を優しく包んでいく。



ジム

山本起也監督作品

北澤鈴春 / 矢原隆史 清水高志 八尋亮 青木克敏 吉川祐二郎 / 北澤公徳 板倉一彦 松永喜久 高田次郎 星野敬太郎 / 北澤ボクシングジム練習生 / 花形進 / 寺島進(ナレーション)
 撮影: 内藤雅行+宮武嘉昭+田代啓史+柳田義和 録音: 大石和也 製作協力: 野口香織+星田紀子 撮影協力: 瀬川龍+山田達也+助川満 録音協力: 鈴木興子 編集助手: 岡明子 音楽演奏: 谷川賢作(ピアノ)+宮野裕司(アルトサクソフーン)+大坪寛彦(ウッドベース/ウクレレ)+青木泰成(トロンボーン) アニメ製作: 和田敏克+松田和美 ネガ編集: 山口とし子+石川歩 タイトル: 津田輝王 キネコ: 笠原征洋+清水禎二 タイミング: 三橋雅之 ラボ: 塩谷眞道+鈴木優子 特別協力: 伊勢真一+浜田徹+本間喜美雄+吉村隆 スチール撮影: 野口泰男+山本潮 宣伝: 越川道夫 製作: 一閑社/「ジム」製作・上映委員会 配給: スローラーナー+こたつシネマ (2001年/16ミリ/カラー/124分) 日本芸術文化振興会 芸術団体等基金整備事業

2003年8月16日(土)より **熱風のレイトショー**
8/16(土)より 連日 PM 8:10 ~ PM 10:20 上映
 ●リピーター割引有り! 前売券及び当日券の半券提示の方は1,000円でご覧になれます。
 当日: 一般1,500円 / 大学生1,200円 / 高以下・シニア1,000円
 ※本作は北澤ボクシングジムとは関わりありません。

前売 1,200円 好評発売中 (チケットびあ他)

大阪市淀川区十三本町1-7-27サンボードシティ6F
 阪急・十三駅 西口より徒歩3分

第七藝術劇場

☎06・6302・2073
<http://www.nanagei.com/>